



三びきのやぎの がらがらどん

北欧民話

マーシャ・ブラウン え せた ていじ やく

福音館書店 1965年 1050円

32ページ 26×21cm

昔、三びきのやぎがいて、大きさは違うけれど名前はみんな、がらがらどんといいました。ある日三びきは山の草場へ、登って行きました。でも途中の谷川には橋があって、大きな恐ろしいトロルが住んでいるのです。トロルを倒さなければ草場へ行くことはできません。小さいやぎのどんがらどんから順に橋を渡っていくのですが…。橋を渡る音に、やぎの重量感を感じさせ、繰り返しの面白さと、画面いっぱいに描かれた絵の迫力、トロルと対決する大きいやぎの がらがらどんの強くて迫力満点の戦いぶりは、子どもたちを惹きつけてやみません。



じごくのそうべえ

田島 征彦 作

童心社 1978年 1470円

40ページ 25×26cm

軽わざ師のそうべえは、綱渡りの最中に落ちて死んでしまいました。地獄へ行く途中、そうべえは歯ぬき師、医者、山伏と道連れになりました。地獄では4人もろとも鬼に丸のみされるやら、えんま大王に湯のにえたぎった釜へたたき込まれるやら、針の山に放り込まれるやら。それでも4人はそれぞれの得意技で切り抜け、まるでこたえません。えんま大王はさじを投げて、4人を地獄から追い出してしまいました。

力強い絵とユーモラスな関西弁の語り口が愉快。姉妹編に『そうべえごくらくへゆく』、『そうべえまっくろけのけ』もあります。

